

令和7年度 第3回地下水保全連絡協議会 会議録

- 1 日時 令和8年3月4日(水) 14:00～15:00
- 2 場所 サニープレイス座間
- 3 出席者 委員 西海会長、山内副会長、飯島委員、坪田委員、西委員、加賀原委員、小玉委員、田川委員

事務局 暮らし安全部長、生活安全課長、副主幹兼環境保全係長、主事

- 4 公開の可否 公開 一部公開 非公開

5 議題

- (1) 座間市地下水保全基本計画改定について
- (2) 有機フッ素化合物分析 1月調査の結果について
- (3) 地下水位の変化と対応について
- (4) その他

6 配布資料

- 資料1 令和7年度第3回地下水保全連絡協議会資料
- 資料2 座間市地下水保全基本計画(案) (概要版含む)
- 資料3 有機フッ素化合物分析 1月調査の結果について
- 資料4 地下水位の変化と対応について

7 議事

- (1) 座間市地下水保全基本計画改定について

ア 事務局説明

事務局 今年度行う座間市地下水保全基本計画の改定作業について報告する。なお説明は当該事業の委託事業者から行う。また、地下水保全連絡協議会に先立ち開催された地下水採取審査委員会でも、地下水保全基本計画の改定について概要版を含め御意見をいただいたので、内容と対応について報告する。

イ 質疑応答

坪田委員 アンケートについて、資料編に詳細な情報があるが、本編の調査概要にも実施時期等を入れるべきではないか。

事務局 アンケート実施記事を追記する。

西委員 基本計画の推進体制の図について、市民と事業者の間に協働とあるが、どのような活動を指しているか。

事務局 色々な活動がありうる。例えば、本協議会は、まさに市民と事業者が協働する代表的な活動と言える。また、企業やNPO法人が主催するイベントに市民が参加することもある。

坪田委員 令和7年は降水量が少なかった。そのため、地下水涵養量は少なくなるだろう。もしも地下水揚水量が例年並みで推移した場合、地下水涵養量と地下水揚水量の差分は平成30年と同程度になるか。

事務局 令和7年は少雨だったため、理論的には地下水涵養量が少なくなると考えている。ただし、地下水揚水量は近年減少傾向にある。結果は地下水位に反映されると思われるので、モニタリングしている地下水位を注視していく。

(2) 有機フッ素化合物分析 1月調査の結果について

質疑応答は特になし。

(3) 地下水位の変化と対応について

ア 事務局説明

事務局 令和7年度は降水量が少なく、地下水位が低下している。今後も注視し、注意水位を下回った場合には、事業者にお知らせすることを予定している。

イ 質疑応答

西海委員 上水道の井戸へ影響はないのか。

事務局 影響が出ているような話は聞いていない。地下水部門でも観測井の水位を毎日注視しているが、引き続き継続する。

坪田委員 注意水位・警戒水位の設定根拠は。

事務局 平成21年の地下水総合調査の結果を基に設定した。